

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

北上川と共に生きた平泉文化 第13弾

—平泉文化を後世に残すため【国の取り組み】—

柳之御所遺跡の保存

パート2

柳之御所遺跡と一関遊水地計画の変更

一関遊水地堤防・バイパスのルートを変更

当初は、「柳之御所遺跡」を通る形で一関遊水地の堤防及び国道4号平泉バイパスが計画されましたが、事前の緊急発掘調査が進むにつれ、この遺跡がかつての「柳之御所跡」であることを裏付ける貴重な遺品・遺構が相次いで出土しました。そのため国土交通省では、この遺跡は日本の歴史を解明する上でとても重要であると判断し、堤防とバイパスのルートを一関遊水地側に変更することで、遺跡を保存することにしました。

2002（平成14）年から始まった川側への前出し工事

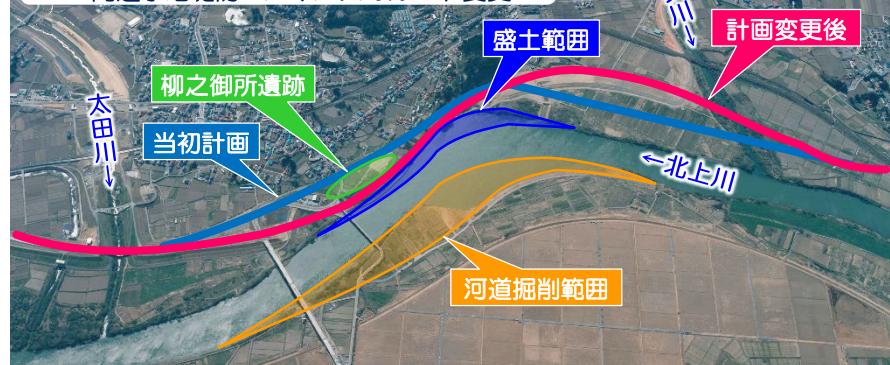


堤防・バイパスルート変更の経緯

- 1981年（昭和56年10月） 平泉バイパス都市計画決定 用地取得開始
- 1988年（昭和63年4月） 発掘調査開始
- 1990年（平成2年11月） 「柳之御所遺跡保存」に関する20万人の署名簿が、建設省・文化庁・岩手県・平泉町あてに提出
- 1992年（平成4年12月） 調査中の遺跡が『吾妻鏡』に記載されている平泉館（柳之御所）であることを、平泉遺跡発掘調査指導委員会が答申
- 1995年（平成7年3月） 平泉バイパスルート都市計画変更
- 1995年（平成7年7月） 北上川上流改修計画（一関遊水地計画）変更
- 1997年（平成9年3月） 「柳之御所・平泉遺跡群」国史跡に指定
- 2002年（平成14年） 川側への前出し工事を実施
- 2004年（平成16年11月） 北上川・柳之御所遺跡保存に伴う河道付替完了記念式典

柳之御所遺跡の保存

～一関遊水地堤防・バイパスのルート変更～



景観への配慮

国土交通省では、柳之御所遺跡の景観を保護するため、修景盛土を行い、遺跡からバイパスが見えないよう景観への配慮も行いました。



※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svttvyoujyo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
 第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470 第4弾 NO.478 第5弾 NO.479 第6弾 NO.480
 第7弾 NO.482 第8弾 NO.486 第9弾 NO.487 第10弾 NO.493 第11弾 NO.495 第12弾 NO.506

※北上川学習交流館 あいぼーと展示資料より